

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370103453		
法人名	夕凧会		
事業所名	グループホーム 夕なぎの家		
所在地	岡山市東区宿毛745-3		
自己評価作成日	平成30年2月21日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 高齢者・障がい者生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	平成30年3月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

社会福祉法人夕凧会の広い敷地内に、特別養護老人ホーム、デイケアセンター、ヘルパーステーション、ケアハウス、老人保健施設、道を隔てて宿毛診療所があり、総合的なケアを受けられる。ケアハウスの4階にある事でとても眺めが良く、小高い丘には桃畑や桜並木、眼下に広がる田園風景と見ていて飽きない。居室の南は屋上庭園になっており、畑やプランターで季節の野菜や花を育てている。開放的な明るいホーム内で、一人ひとりの思いに寄り添いながら、のんびりゆったり一緒に楽しくをモットーに支援させていただいている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の保健・福祉を担う法人をバックに、ケアハウスの4階にある1ユニットのグループホームで関係機関と連携し全力でケアにあたっています。全職員正社員で教育・研修が充実し、夕凧会が主催する夏祭りは地域の大イベントとして定着しており又、1階交流ホールでの催事も楽しみになっています。毎年事業計画や目標設定を明確にし、検証し、向上心を持って取り組む姿勢に期待が膨らみます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念に添い、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念になる様に作り、職員会議で話し合いを持ち、実践に繋げている。	毎年度事業計画作成に伴い、基本方針を定め、具体的な個人の目標(外出支援・口腔ケアなど)設定・行動・結果を業務評価表で点数化して検証し、実践につなげています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	夕凧会の夏祭りやグループホームの外出、地域の方が出席する運営委員会などを通して、ふれあいを持つことが出来る。	地域の方々の参加で繰り広げられる夏祭り(屋台や花火もあり)、ボランティア(喫茶室・コーラス・踊り・劇・出前講座他)や実習生の受け入れ、敷地内施設入居者との行き来、外出時の挨拶など、交流が続いています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	岡山東区地域包括支援センター、地域連携室と連携をとりながら、地域の方の相談事や見学などに応じている。居宅との連携により、入居者の半数が施設近辺からの入所であり、地域貢献に繋げている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事や取組などを報告し、地域の方、家族、市の担当者から適切な助言を頂き、ケアに活かしている。	入居者・家族・地域・行政・職員・施設長など多数参加して2ヶ月ごとに開催し、状況報告や話し合い(時には時候の挨拶も飛び交う和やかな雰囲気)を行い、詳細な議事録を残し、サービスに活用しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明な点は置いておかず、市の担当者や地域包括支援センターに相談し協力を得ている。又、地区の出来事や情報など得ている。	運営推進会議での話し合いのほか、明確な判断を必要とする事例(費用負担など)については直接相談し回答をもらうなど、良好な協力関係が築けるように取り組んでいます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月、事故防止委員会に出席し、身体拘束をしないケアを行う様取組んでいるが、玄関のみ施錠している。	毎月の事故防止委員会では施設長からの説明があり、マスコミ報道を含め、対象となる行為について話し合い、理解を深めながら安全安心のケアを目指しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設長より、権利擁護や、コンプライアンスルールについての講習があり、新聞テレビなどから、職員間で話し合う機会がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前は成年後見制度を活用されていた入居者がおられたが、現在必要性がないので研修のみになっている。いつでも実践に繋げられる様努める。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間をかけて説明し、後で苦情につながらないように、理解や納得をして頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、手紙、電話で現状を伝え、意見要望などを聞いている。あれば真摯に対応し活かしている。	入居者との対話や観察、運営推進会議・家族会・面会時・便り・電話など機会をとらえて家族から話を聞き、体重増加を問われた際は栄養士と相談し、量や食べるスピードを加減するなど、ケアに反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	いつでも気付いた時に、改善案や良い意見が言える雰囲気づくりをしている。職員会議で皆の意見も参考にし、実践に繋げている。	施設長や管理者は日常的に声掛けや気配りができており、趣味活動や役割、飾りつけ、ケアのあり方などの意見を反映させています。研修・教育・待遇など環境整備が進んでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	OJT(職場内教育)やキャリアパス制度が整っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事考課制度や資格取得の講習、報酬金など職員を育てる為のシステムがある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム間での相互訪問はないが、グループホーム協会の研修会などで意見交換を行い、サービスの質を向上させるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活歴や性格、趣味など情報収集し、今までの生活と大きく変わる事の無い様にし、傾聴共感に努め安心安全に過ごして頂けるよう努めている。。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時などに不安や困りごとなどを傾聴し、真摯に対応することで、信頼を得られるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族にとって、今一番必要な支援は何かを他職種との情報交換により見極め、判断し本人や家族との話し合いから納得頂けるよう努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族のような雰囲気の中で、残存機能や言動を大切にしながら、日々の生活で活かせるような支援に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者、家族の願いや思いを汲み取りながら、連絡を密にしケアに活かしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の方やケアハウスからの友人知人の来訪や、遠方の親類からの電話に出られるなど、馴染みの関係が継続出来ている。	周辺地域からの入居者が多く、友人・知人の来所、家族との外出・帰宅、遠くの家族からの電話・贈り物、行事や交流ホールでの出会いなど馴染みの人や場所との関係が継続されています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の配膳や下膳、創作活動、菜園活動、レクリエーションなどを通じて、一人ひとりが孤立することなく協力し、助け合えるような支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、会いに行ったり声掛けが出来る様な、関係づくりが出来ている。必要な時は助言したり、カンファレンスに参加などしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中で、共感や傾聴することで、希望、意向などの思いを受け取り、カンファレンス、職員会議で検討し、支援につなげている。	体調・日頃の言動・家族との関係など背景を知り、専門家の意見も参考に検討しています。引きこもりの入居者が実習生がかけた言葉に心を開くなど、目からうろこの成果があったようです。	処遇困難を体験し、成長への大きな一歩になったことと思いますが、これからも対話や作業など検討を重ね、思いや意向の把握に努めていかれることを期待しています。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の生活歴や生活環境を把握し、これまでの経過に即したものとなる様、努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりに合った暮らし方が出来る様、カンファレンスを重ね、適切な支援が出来るよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族にとって、今一番必要な支援は何かを見極め、真摯に対応している。家族、主治医の意見に基づき、介護計画が作成されるよう努力している。	本人・家族の意向を踏まえ、医療・スタッフ・必要な関係者と話し合い、カンファレンスを重ね、本人がより良く暮らすための意見やアイデアを取り入れ、現状に即した介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	わずかな気づきも職員間で共有し、介護計画に活かし、改善点があれば見直していくよう努力している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の多様なニーズに対し、他職種の助言などにより、柔軟かつ丁寧な対応が出来る様、努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事や外出など地域資源を活用し気分転換を図るなど、豊かな暮らしづくりに努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族、主治医、事業所の良い関係づくりが出来ていると思う。これからも、連絡を密にとり、適切な医療が受けられる様努力する。	道路を隔てた診療所への通院をはじめ、従来のかかりつけ医や大きな病院への受診、専門医(精神科)の往診など、希望に添った支援に努める様取り組んでいます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	感染症予防の指導や、急変時の助言など協力体制が出来ている。今後も連絡など取り、適切な受診に繋げるよう努力していく。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医、協力病院、事業所間の連携により、早期に退院が出来る様、情報交換や相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族や職員、主治医、栄養士間で話し合いを重ね、看取りに近い所まで、支援をさせていただいている。	重度化や終末期への対応について、契約時・変化に応じて説明と同意を繰り返し、家族・医療・関係者と連携し、方針を共有しながらチームで支援にあたり、事業所で支えられる限界までサポートしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変や事故発生時に備えて、救命救急研修を受けたり、主治医の助言や指導を常に心にとめて、危機管理意識の徹底を図る様努力している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防避難訓練を行っている。平成28年からは夕凧会全棟で3月11日頃午後2時より、大震災を想定しての災害避難訓練を行っている。	4階部分に事業所があり、地域の受け皿としても期待されています。避難訓練のほか、今月は南海トラフを想定した訓練に法人全体で取り組む予定です。3日分の食料・ポータブルトイレ・ゴミ袋・ライトなども準備しています。	地域の特性を考慮し、起こりうる災害に対応できるよう、日々の認識とシュミレーションを含め、準備・点検・整備を進め、消防や近隣との協力体制を築いていかれることをこれからも期待しています。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	カーテンだったトイレの入り口を、アコーディオンカーテンに替えるなど、プライバシーを尊重する様な言動が行えるよう努力している。	今年度、トイレ入り口に隙間のないアコーディオンカーテンが取り付けられ、使用者にも他者の目にも好ましく、一人ひとりの特性(多動など)に合わせて勤務体制を変えるなど細やかな配慮がなされています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症の進行により、希望の表現や自己決定が難しい入居者もおられるが、声掛けやスキンシップ、表現から読み取ったり、寄り添い傾聴するなど、拒否も含めて自己決定が出来る様な支援に努めていく。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の性格や趣味嗜好等を考慮し、一人ひとりのペースに合った支援ができるよう努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	爪切り、髭剃り、服選びなど細かな要望に応え、その人らしさがでる様支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入れ歯の調整や、誤嚥体操を行い、盛り付け、下膳配膳の手伝いなどし、食事が楽しみになる様な支援に努めている。	朝・夕食は手作りし、昼食は階下の厨房から運んでいます。台拭きや盛り付けなどできることを一緒に行いながらテーブルを囲み、収穫野菜を取り入れたり、おやつ作りなど楽しい食事の支援に努めています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの好みや嚥下状態など考慮し、主治医や栄養士の助言を取り入れながら支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科受診や入れ歯の清潔保持を心掛けていますが、朝食後だけは来ていないので、今後支援に取り組む。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の排泄のパターンの把握に努め、声掛けや誘導をしている。日勤帯おしめ使用は1名いる。	排泄パターンを把握して、声掛け誘導し、できるだけトイレでの排泄を心がけ、自立に向けて支援しています。サイクルが読みにくい方に、入居者同士の声掛けで改善がみられたこともあったようです。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バナナ、ヨーグルト、サツマイモなどを、食事やおやつに取り入れたり、運動や下剤の服用などで早めの排便を促す様支援している。医師、看護師、栄養士と連携を図っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	2名強い入浴拒否者がおられる。声掛けの工夫やタイミングをずらすなど、柔軟な対応に努めている。	浴室には床暖房や大きなパネルヒーターが取り付けられ、一面の窓ガラス越しに景色を楽しむことができます。入浴拒否者に対して、あの手この手で工夫を凝らし、支援する日々が続いているとのことです。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後の休憩時間や、自宅で使用していた毛布やラジオの使用、眠前薬の服用、安眠の為の支援に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の薬の質問があれば、説明を行い服用後の変化など見逃さず、主治医に報告し、指示を仰ぐようにしている。粒の服薬が困難な方には、粉状にしたりとろみ剤を利用し工夫している。薬の見直しも行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	共同生活の中で、ひとりひとりが残存能力を活かして関わっており、親類に会いに行く、趣味活動するなど喜びが感じられる様な支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	家族の方の応援で親せきの家や自宅に外出できたり、季節ごとの花見や喫茶店でお茶、初詣など地域に出掛けている。また、一人ひとりの希望に添って、個別の外出支援も行っている。	ベランダでの野菜や花の世話、階下の地域交流ホールでの催し・各種行事への参加、敬老会、夏祭り、通院、家族との外出、初詣やお花見、ドライブなど希望に添いながら、機会をとらえて戸外に出かけられるよう支援に努めています。	運営推進会議録では、花見のお手伝いをと声をかけて下さる方もおられるようですから、家族や協力者と共に、希望に添いながら、外出できるよう支援していられることを期待しています。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人お金を所持しておられ、時々要望の物を職員が買物する。他の入居者の方も要望の品を買ってきたり、一緒に買い物に行ったりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠くの親類や知人からの電話や手紙に、本人と共に誠意ある対応が出来る様努めている。いつまでも良い関係づくりが保てる様、年賀状、暑中見舞いなどの作成の支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	4階は明るく開放感がある。共有の空間には花や全員の季節ごとの作品など飾り、季節感の演出に心がけている。菜園では花を育てたり、夏野菜やサツマイモを作りおやつや食事に取り入れ工夫している。	最上階にあるホームの玄関を入ると、リビング・テラスが直線上に続き、ガラス戸からはらかな山なみを見渡すことができる造りになっています。飾りつけや生け花もあり、明るく落ち着いた雰囲気、居心地よく過ごせる空間となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの居心地の良い空間作り、好みの場所の確保、気の合う入居者同士での場所など、本人の思いに添った居場所づくりに努力している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族の意見を取り入れ、安全性を考慮した家具の配置や、壁には思い出の写真、花などを飾り、テレビなど本人が居心地良く過ごせる様努めている。	手洗いや物入が備わり、大切にしているものや必要なものを持ち込み、配置や飾りつけを工夫し、本人が落ち着いて過ごせるように配慮されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー、便座まで続く手すり、トイレの目印、浴槽内の滑り止めマットなど個人の残存機能を活かしながら、安全で自立した生活が送れるよう努めている。		